

平成26年度第5回島田市事業仕分け委員会議事要録

1 日時

平成26年10月23日（木） 午後7時から午後9時50分まで

2 場所

市役所本庁舎4階 第3委員会室

3 出席者

委員：松本委員長、大石副委員長、原川委員、村田委員、伊藤委員、樽林委員、朝比奈委員、鈴木委員、森委員、大池委員

事務局：大石企画課長、菊池企画課長補佐兼行政経営係長、望月主査

4 概要

1 委員長あいさつ

2 傍聴人アンケート結果

冒頭、事務局からから【資料1】に基づき説明

【質疑応答】

○委員 アンケート回答者が44人とのことだが、回答しなかった人を含めて傍聴者はどれ位いたか。

○事務局 大会議室の方が多く、市職員、関係者含め最大時で30人超は傍聴席にいた。アンケートへの回答割合は、正確には分からないが、6，7割位と感じた。

○委員長 若い人の傍聴が少ない。若い人にも参加してもらうのが重要なので、この点が課題である。

3 来年度事業仕分けに向けての課題等

【資料2】に基づき、課題等について意見をいただいた。

【意見等】

1 日程について

○事務局 1班が1日5事業を2日間担当し、事務局としては委員の負担が大きいのと思うが、実際行ってみてどうか。

○副委員長 疲れるが、1日の事業数、日数とも適当ではないか。

○委員 特に疲れたということはないが、時間が限られた中で質問すべきことをまとめるなど時間に合わせて対応しているので、例えば時間が長くなればそれに合わせて、質問を考えたりすると思う。

○委員 後半に集中力が途切れてしまったので、時間的配慮があっても良いの

かもしれない。1班10事業だったが、深掘りしたかったので、件数は減らしてもいいのではないか。

- 委員 疲れないという嘘になる。時間配分40分程度は長すぎても短すぎてもよくないので、この時間配分でこの事業数なら無理ではないと感じる。
- 委員 疲れたが、時間的に10件しっかり調べてやるのは大変、別の資料で提案しているが、前もっての論点整理、資料が充実していれば、これくらいの時間で十分だが、ちょっと変なのがありそれに半分くらい時間を使ってしまうと、時間が足りなく、深掘りもできなく、疲れてしまうので、それとのバランスになる。うんと深掘りするなら、10件はぎりぎり、少なくとも良いのかとも思う。ただ、1回の事業仕分けでこれくらいの事業をカバーしたいなら10件はやらざるを得ない。前準備で負担を軽くできたらと思う。
- 委員 時間、件数は妥当と思う。事前に知識などを得る時間があれば、当日はもっと良かった。2日連続で行うのは大変だが、間が空くといろいろな声が委員へ来るかもしれないので、コンパクトに2日連続なのは仕方がないと思う。
- 委員 これくらいなら差し障りもなく、ちょうど良いと思う。事業のどこまでを事業仕分けするかで、多ければ3班に増やすことを考えても良いのではないか。日程的には2日でちょうど良いと思う。
- 委員 特に違和感はなく、適当ではないかと思う。
- 委員 2日間で疲れたという印象である。日程は限界だと思う。1事業をあの時間ではあまり深くできないが、そんなに時間も取れない。一定量の事業を処理する必要があるから、時間、内容ともぎりぎりだと思う。
土日2日連続でつぶれ、次の日すぐ仕事になるので、3連休の始めの2日で実施するのが良い。
- 副委員長 日程はいろんなやり方がある。1週間空けて土曜、土曜に実施している自治体もある。土日の班で委員を変える方法もある。今回の日程はオーソドックスである。工夫はいろいろ考えてもらえればよい。
- 委員長 早めの準備がポイントと思うので、検討をお願いします。

2 会場について

- 事務局 来年の会場は決まっていない。今回は会場が離れていたのも、移動を考えて会場を工夫したい。
- 委員 相対して話を聞けるレイアウトが良いと思った。
- 委員長 座席のレイアウトを工夫してもらえればと思う。

3 事業仕分け委員会について

- 委員長 静岡県を参考にすると、仕分け人の質疑応答を基に評価委員が判定結果を決めるやり方もある。今回は、委員が質疑応答し、判定したがどうだったか。
- 委員 アンケートに「委員の発言が市民を代表しているか」、「聞いてもら

いたいことが話題にならなかった」などあった。

別紙で提案しているが、主旨としては、いかに市民の意見を入れるかで、例えば年度初めに事業を決めて、ある程度のシートも作って公表し、3～6ヶ月程度意見を募集し公表していく。ネットフォーラムのようなもので、ある程度つめていって最後に仕分けをするのはどうか。これは、市民、利害関係者から意見を出してもらって、委員が判断するので良いのかと思う。

- 委員長 仕分けされて、今回の方式での違和感などはどうか。
- 委員 自分の聴いたものに対して、自分で判断するのが良い。県の方式では、判定人が議論を聴いて判定するので理解度に問題があると思う。
- 委員 仕分け人、傍聴者の両方を取り入れる方式はあるのか。何かしら参加させてもと思う。
- 委員長 県では評価者の質問の時間があつた。
- 委員 今回の仕分け結果がどういう風になっていくか分からない中で、討議するのは酷である。仕分け後に、意見がどのように反映されたか評価する委員会が必要だと思う。
- 事務局 1班6人の人数はどうか。
- 委員 1時間でやるとするなら、これ以上増えると議論がぼやける可能性がある。やってみて6人は時間を含め大方良いのではないか。
- 委員 6人は多くも少なくもなく適当ではないか。
- 委員 これ以上増えると質問のタイミングがない。時間を2時間にすると大変になるので、5、6人くらいが良い。仕分け人をどうやって選定するかがからむ話で、人数を少なくすると色々な性格の人を選べなくなる。
- 委員 先ほどの「決め方」で、仕分け人が判定することについてですが、仕分け人は選挙で選ばれている訳ではないので、島田市民を代表していると自分は思っていない。ただ、自分も島田市民なので、市民の声としてとらえてほしい。
- 副委員長 いろいろな市民目線があれば良い。
- 委員 男性と違った女性目線も必要なので、女性をもう少し増やすことを考えたらどうか。
- 委員長 委員会は今年のやり方で大きな問題はなかったと思う。

4 対象事業の選定について

- 委員 始めに形式的な選定をして外している中で、50万円というラインをとっていたが、財政効果をみれば「小さい事業より比較的金額が多い事業を選定していく方が効果が高い」という考えも1つあるので、形式的に選ぶ際はまずこのように外しておいて、その後、どのように選んでいくか。ここでも外部の目を入れていくかどうかの問題を検討してもらう方法がある。

それから、選定して外れた事業は何で外れたのか、市民に対する説明をすれば外れたことに対する疑問なども出てくるが、ここまで公開すれば情報公開がかなり進むのではないか。

それと、指定管理者制度は行革のひとつで、指定管理者は外部の評価で選定して議会の議決を経て指定されている。また、毎年、何らかの評価をし問題があれば改善を指摘されることを考えれば、対象としなくても良いのかなと思う。

- 委員 島田市の場合は、指定管理者選定に外部は入っていない。また、指定管理の案件は金額も高く、市民の関心も高いので、市民目線から見た場合、外すことについてのチェックは必要と思う。
- 委員 農家民宿の案件が途中で対象から落ちたが、この案件は中山間地域の振興のところで政策パッケージとして説明があったので、何で取り止めになったか事情の説明を求めたが、「モデル事業としてやっていたがモデルが出来たので少し様子を見る」と、よく分からない説明であった。決めておいてやめるのはしっくりいかない。市民に対する説明責任があるのではないかなと思う。
- 委員長 個人的な意見であるが、事業仕分けは限られた時間の中で公開の場で議論することである。モデル事業や新規事業は、データがないため議論に耐えられない。モデル事業は失敗も踏まえた枠組みでやらなければうまくいかないと思う。
- 委員 事業仕分けは事業の評価をするが、島田市の政策を評価する部署が内部にしかない。こういう政策だからこのような事業をやるという説明の中でやっていかないと、事業仕分けだけ行っても効果はない。政策をどう評価できるかも検討したほうが良いと思う。
- 委員長 事業の組み方が部で全く違っている。例えば、茶振興事業は施策の1つでそれに事業がたくさんあるのと一般的なバス事業ではレベルが違うので、同じ土俵でやるのはおかしいことで、本当は施策の評価をしないとけない。
- 事務局 島田市が何を目指しているか根本を理解してもらってやるのが重要かと思う。
- 委員長 目指すべき姿で施策があってそれを事業として仕分けしていくのが効果的で効率的だと思う。
- 委員 資料2・4ページ8)にも書いたが、事業を評価するのに大きなパッケージの中の小さな1つを持ってきても議論しにくい。他のパッケージとの連携で有効になるのもある。その辺の説明が総合計画の何章何項となっており分かりにくい。市がこうやりたい、ここが弱いからこれが重要だという説明してもらえれば議論しやすい。概略説明の時にしてもらえればと思うが、説明を聞いていると課の人も本当に理解しているかという気もする。
- 委員長 事業仕分けの効果はお金の部分もあるので、その工夫も必要かと思う。事業を選ぶ段階からお金の部分を見ていけるシステムの工夫の余地もあるかと思う。

5 事務事業シートについて

- 委員 課によって、シート、説明の落差が大きい。
- 委員 仕分けの意義を職員が理解しているのか。事業の効果や適切にやっていることについて、仕分け人を通して市民にアピールする意識が低い。
- 事務局 職員意識はまだ低い。事業仕分けの意義を正しく理解してもらうことから始めなければいけない。
シートとの差は、自分のものを作るので精一杯で他と比較して作れなかったのも原因と思う。企画課では全部を見られるので指導を行ったが、レベルは上がってこなかった。
- 委員 補助金、委託にしても相手方の収支状況や概略などの資料を、可能な限りでいいが、付けてもらえれば良いと思う。
- 副委員長 今回対象となった課の様子を見た各課が事業について説明責任を果たせなければいけないということを勉強することが大事で、これだけで終わり来年また1からでは駄目で、これを生かして行ってほしい。それで3年経てば事務事業シートをしっかりと作成する必要性が分かるようにつなげてほしい。
- 委員長 市民に分かりやすい説明をすることが大切なので、3年学んで行ってほしい。
- 副委員長 各事業、最低限必要な資料はあるので、用意できる心構え、普段の仕事のスタンスを持ってほしい。

6 資料請求について

- 委員 委員が資料請求した資料を傍聴人は見ていない。委員と傍聴人、同時公開を原則としてほしい。ただ、公表する負担から、担当課が「資料がない」としてしまうのも困るが、その辺を含めて資料を集めてほしい。
- 事務局 県では事務局が資料を選ぶのにも時間をかけているとコーディネーターから伺った。今回は、時間がなかったことや、分かりやすい資料を作る習慣もなかった。
- 委員長 すぐには身につかないかもしれないが、事業仕分けの効果として3年かけて進めて行ってほしい。

7 事務事業評価シート

- 委員 「不要」は「可及的速やかに」という意味で、「終期の設定」とはちょっとニュアンスが違うと思う。
- 事務局 終期を定めるのは、期限付き廃止のようなもので、そういう形で改善していくので、大きな意味で「改善」に含まれると考える。
- 委員長 個人的にも「終期の設定」と「不要」は違うと思う。
- 副委員長 この評価シートは他の自治体のものを使ったのか、それとも新しく作ったのか。
- 事務局 他の自治体で使っているものを参考に修正した。

○委員長 「不要」と「終期の設定」は別で、現状で良い。

8（資料2では項目9） 事業所管課の説明・応答について

○委員 説明が資料を読むだけだったので、資料の補足がなければ時間の無駄と感じた。

○委員 仕分け人と傍聴者に説明するとなれば、事業の概略は説明する必要がある。ポイントを押さえて、分かりやすくすること。

○副委員長 ポイントを説明するためにも、資料が必要である。

○委員長 すぐには難しいが、これからのあり方なので学習してもらいたい。

○委員 所管課にうまくしゃべってもらえるように、仕分け人も質問の仕方を考えないといけない。お互いにキャッチボールできるようにしなければ、真意は分からない。傍聴者に真意が分かるようにする必要がある。

○委員 課長が大筋を説明し、細かいところは担当が説明するのが1番的確なので、そう行ってほしい。

○事務局 「概要は所属長、それ以降は所属長以外でも可」と説明していた。

○副委員長 冒頭部分は所管しているので課長がするが、それ以降は分かっているのに答えられても困る。

○委員 時間が短いので、効率良く、一番分かっている人が答えるようにしてほしい。

9（資料2では項目8,10,11） 事業仕分け当日の運営、広報、傍聴について

○委員長 当日の運営の記録については、事務局に考えてもらいたい。

○委員 議会でもそんなに傍聴者はいないと思うので、初めての試みで、委員も市民が選んだ訳ではないため、なかなか関心が持てないのが普通と思う。傍聴者の多い少ないは言えないのが感想である。どうしたら市民が興味を持てるのか、これからPRをどうするか策を考えてほしい。

○事務局 広報は、広報しまだ、HP、新聞とある程度努めたが浸透しない。事業仕分けを行ったことが広まって、認識されれば、来年は興味を持ってもらえるのではないか。工夫しながら効果的な広報はするが、ある程度の時間も必要ではないか。

○委員 今回の結果をどう活かせるかがポイントだと思う。今回の開催が表に出たのは、新聞、特記コメント、ビデオであるが、ビデオは見にくい。また、見たいという材料もないので、文字でのダイジェストが必要だと思う。ビデオを1時間見るのは大変である。何らかの検討をお願いしたい。

今回の成果が市民に分かれば見る気になるのではないか。

○委員長 今回の成果が大きな広報となる。

○副委員長 最初から映像だけで済ませるつもりだったのか。基本的に議事録は当然作る必要がある。映像は雰囲気伝えるだけ。記入しただけの意見では足りなくて、間のをチェックして利用しなければ、せっかくもらった意見が活かされない。

- 事務局 映像だけでなく、議事録が作れるよう、音声も同時に録音するようにする。
- 副委員長 議事録をちゃんと作らなければ意味がない。映像はどちらでも良い。
- 委員 途中で意見は言っているから、最後に改めてまとめたものを意見をとられるのは困る。それ以上のものを持っていると思うから、途中のやり取りが必要であり、最後のコメントはいらぬと思う。また、どこでどうなったかが分からないといけぬ。
- 委員長 議事録は作ること。
- 副委員長 広報、傍聴で市民判定人を入れると30~40人の市民が来て見ることになる。ある程度強制的に集める仕組みを考えても良いのではないか。聴くだけでは申し訳ないので、それなりの判断をしてもらうようにすれば、真剣に聞くのではないか。2年目からやり方を変えるのはどうかというのもあるが、1つの方策として検討してほしい。
- 委員 傍聴する人が少なかったのは、やはり広報が足りなかったのだと思う。知ってもらわなければならないので、進めてもらいたい。また、広報しまだの実施結果の記事が小さかった。1ページ使うくらいにしてほしかった。
- 事務局 広報にも注文を出すのが、紙面の都合もある。要求通りにならない点もあるが、なるべく早くから知らせていきたい。
- 委員 自治会、教育関係、団体などから出てもらうシステムを作った方がよいのでは。
- 事務局 グループ活動に参加した時にお知らせするなど、直接PRする方法を検討したい。
- 委員長 工夫が必要だと思うので、検討をお願いします。
- 副委員長 傍聴人にカウントするかどうかは別として、市職員の参加が少ない。職員の関心がないのでは、これがシートの作成とか全てにつながる。せつかくやるならば、職員全体で応援する気になって、そうすれば扱ひも大きくなって、職員の近所にも伝わるのではないか。もう1回、原点に戻って、なぜやるかを踏まえてやってもらいたい。
- 事務局 市民だけでなく、職員にも事業仕分けの意義を理解してもらう。

10（資料2では項目12） その他について（全体も含めて）

- 委員 補助金について、どうやって出来たのか、誰が決定したのか、市で誰も評価していないのか分からない。事業仕分けで初めて出るのではなく、市の内部できちっと評価する機関があれば、仕分けはしなくていいのではないかと思う。
- 委員 個人的な考えではあるが、事業仕分けは、お金を節約して効果を高めてプラスにさせる目的もあるが、そもそも論として、市の目標を達成するために、施策レベル、事業レベルでやるかがある。施策レベルでは、何々事業

というものはなく、施策の考え方を達成させるためにいろいろな事業がある。選定基準にも関係するが、施策を達成するための重要度、優先度があり、中枢を占めるようなものを評価対象とする、お金だけに着目しすぎるのはどうかと思う。

- 委員長** 世間の関心はお金であり、補助金がいくら削減されたかとかになる。大事なのは、市が何をしようとしているかがポイントだと思う。
- 委員** 仕分け結果の横展開を考える必要がある。全部の事業は仕分けできないので、今回の対象事業と似た傾向のものは、指摘されたことをチェックしなければ、仕分け対象になったかどうかで差が出てしまう。結果を活かす横展開の検討をお願いします。
- 事務局** 横展開については、財政課とも話をしている。現在、結果を受けて所管課の対応方針の整理をしているが、委員会の意見は複数ある。事務局は、意見のエッセンスを所管課で感じてもらえればと話しているが、委員会と所管課でのズレがあると思われるので、どう整合させるか悩んでいる。また、意見を一問一答ではないが、区分ごとに整理しているが、どうやって整理するか悩んでいる。
- 委員長** 公共政策は数字に表せないのが難しい。人によって良い悪いが違う。
- 委員** 財政課などにも事業仕分けに立ち会って聞いてもらえれば効果が大きくなるのではないか。
- 委員** 来年から財政課など関係のある課にも聞いてもらう仕組みを導入しても良いのではないか。
- 委員** 担当課が議論を受けてどう受け止めるかは、プロセスではいろいろな意見があるが多数決で結果を出している。議論の中でいろいろある意見は、ポイントの意見を事務事業でどう直したか、削減したかの作業を担当課にしてもらえば良いのではないか。
- 副委員長** 担当課はこれだけの意見をもらったので、意見の要約を示し、市の方針からこうやると責任を持って説明をしっかりとすれば良い。
- 委員** 全ての意見を反映させることはできない。ポリシー、思いをしっかりと出せば良い。結果がまずければ、そこで変える弾力性があっても良い。
- 副委員長** 結果、今までのままというのが一番良くない。
- 委員** 担当者が改善点は分かっているのだから、最初から指導するのではなく、担当課に投げておいて、提出されたものを指導していくので良い。
- 事務局** 24事業中21事業で改善という結論が出ていて、現在、担当課で検討しており、市の方針を11月末に出すことになる。改善との結論が出ていても、担当課が現行を進めたいと強く思っていれば、それでも良いということか。
- 副委員長** 改善の要因が言われているので、なぜその要因を置いて進めるかを説明する必要はある。
- 委員長** 説明責任が重要である。

- 委員長 対象事業選定について、総合計画の章ごとにやることについてはどうか。
- 委員 章ごとに政策目標があり、目標達成のために関連の事務事業があることから、今年のやり方にも良い面もある気がする。
- 委員 議論の中で、他課の結果について似たような事業は確認するとのことがあったので、それを行うのであれば、いろいろな課を行ったほうが良い。
- 委員長 政策評価なら章単位もあるが、偏ってしまう。
- 委員 今回の対象は産業なので、産業に関係ない人にとっては、福祉や教育があったほうが良かった。
- 委員 1～3章だったので、後の方に興味がある人は、今回は最初から興味がなかったことになる。
- 事務局 章ごとだと1課が複数当たることもあり、集中すると日程に苦労する。
- 委員 今回、何で1～3章だったのか、何で全部やらなかったのか疑問である。
- 事務局 事業仕分けを当面3年間やるという考えなので、3年間で1～7章全てを行うという考えからである。
- 副委員長 6, 7章に早く手を付けたほうが良いものがあるかもしれない。例えば、1～3章は今年やったので、来年は4～7章で各章5つやって3年目は全体をやることもある。
- 委員 委員を選ぶにも、あまりバラけると分野が違うので大変な面もあるかもしれない。
- 委員 1～3章に絞ってもらって良かった。全てが対象だと広範な知識が必要で、ものすごく勉強しなければいけない。
- 委員 班ごとに章を分ける方法もある。
- 事務局 章ごとに行ったデメリットとして、1～3章以外の課は当たらないと思っていたこと。また、資料作成についても、特定の課に集中して大変な部分があった。内部でも変えたほうが良いという意見がある。
- 委員長 この場で結論は出ないので、この意見を踏まえて検討してもらいたい。
- 事務局 今日いただいた意見は整理し、行政経営会議、行政改革推進委員会に報告し、そこでも意見をいただき、来年につなげたい。
- 委員 平成25年の行政改革推進委員会の意見書に事業仕分けの意義等があり、市に対して提案されている。事前に委員に見せてもらえれば参考になった。次回は、事前に委員に配布するとともに、職員にも配布して事業仕分けの意義をもう一度庁内で徹底してもらいたい。

4 「田代の郷温泉管理運営経費」事業仕分け議事録

冒頭、事務局から【資料3】に基づき説明

【質疑応答】

- 委員 ビデオが撮れなくて、議事録を復元するに当たり、当日無いと言っていたデータが後日ありましたと追記されていた。議事録としてどこまで書くべきか、追記、補足は議事録として良いか伺いたい。
- 委員長 議会では、言い間違いなど議事録訂正で行うことはあるが、今回は議事録訂正ではないと思うが。
- 委員 議事録の取り扱いは市の方がよく分かっているのではないか。中身を読んでいないのでよく分からないが、後で出てきた資料によって、判定結果は左右されるのか。
- 委員 当然あるはずの資料がなく、管理体制がおかしいというコメントしたが、そのコメントに対してデータが出てきただけ書かれると、おかしいというのは誤解だったで終わってしまうのではないか。
- 委員長 委員会として、職員の意識を含めて事業の管理体制の見直しをしてくださいとコメントしなければいけない。
- 副委員長 今日の議事録は公開されるので、第5回委員会で事実を確認して、委員会として管理運営体制のチェックをしっかりとやるべきであるとし、当日の議事録は当日のものとして終わらせる。
- 委員 追加のない議事録がHPに載り、追加の事実があることが分かるようにリンクを貼るなどする必要がある。
- 委員長 今回の案件は不信感などもあるので、議事録と本委員会の会議録をホームページ上でリンクするようにする。